

1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

学校名	津山市立中道中学校	実践者名	湯口 陽代
教科	外国語	学年	第3学年
活用内容	検索、英作文の共同作成 意見交流	実践日	令和3年11月11日
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
単元・内容等	Unit5 A Legacy for Peace (New Horizon) 人やものを紹介するために、そのことについて詳しい情報を調べ、関係代名詞を用いて書いた原稿を覚えて伝え合うことができる。		
活用の概要 (目的・活用場面・使用アプリ名を含む)			
<p>(1) 3ヒントクイズを例示し、本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動がイメージできるように、電子黒板に教師が作成した3ヒントクイズを提示する。 ・グループごとに、クイズの題目(「スポーツ」「動物」「食べ物」「スポーツ選手」等)を記載したカードを渡す。 			
<p>めあて 3ヒントクイズを通して、人や物に関する情報を正確に伝え合おう。(条件：関係代名詞を1文は使う)</p>			
<p>(2) 3ヒントクイズを作成する。</p> <p>①個人で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた題目に関する情報をWebで検索する。 ・個人で、3ヒントクイズの下書きを英作文する。 <p>②グループで協力して考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の考えを元にグループでクイズを完成させる。 ・クイズが出来上がったら、事前に共有されたグループごとのJamboardに入力する。 ・時間があるグループは、スペルチェッカー*で英作文のチェックや推敲を行う。 			
<p>(3) 作成したクイズを暗唱する。</p> <p>(4) 自由に歩き回って、クイズを出し合う。</p> <p>(5) 各グループが作成したクイズを電子黒板に提示し、関係代名詞や文法等の確認をする。</p> <p>(6) まとめと振り返りを行う。</p>			
<p>共有されたJamboardに各グループの3ヒントクイズを書き込ませ、授業終盤に全体で確認したことで、全ての英作文の関係代名詞や文法が適切かどうかを効率的に確認することができた。(指導主事より)</p>			
実践者の手ごたえ		児童生徒・保護者等の主な反応や声	
<p>スペルチェッカーを使うことで、教員は添削する負担が減るので、書く回数を増やすことができる。また、生徒がJamboardに原稿を打つことで、全体に共有しやすい。</p>		<p>(生徒から)友達と協力して英作文をするときに、端末が役立った。スペルチェッカーで英作文の確認ができていたので、自信をもって3ヒントクイズを出し合うことができた。</p>	

スペルチェッカー*…入力された文書に対して、各単語が正しく綴られているかを検証するウェブ上のソフトウェア <https://context.reverso.net/>